新型コロナ感染症対策について

感染管理認定看護師　　九川卓也

1．はじめに

2020 年 1 月に中国で原因不明のウイルス性肺炎として報告されて以降、新型コロナウイルスは世界中に拡大しパンデミックとなり、2022 年 9 月で 2 年 8 か月経過した。

日本国内では、2022 年 9 月 19 日時点で、累計 2,074 万 9,336 人の感染が確認されている。山梨県に目を向けると 1 例目の感染者が 2020 年 3 月 6 日に確認されてから 2022 年 9 月 19 日までに、9 万 3,495 人が感染している。県民の約 8.6 人に 1 人が感染を経験している状況となっている。

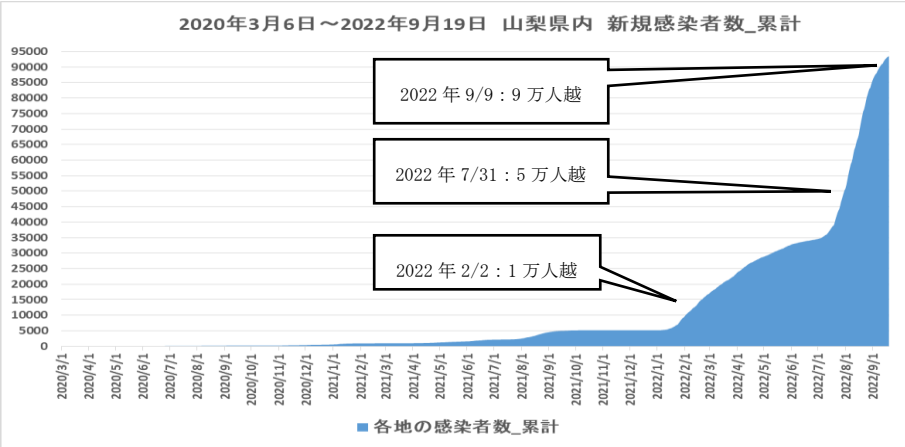


図 1:2020 年 3 月 6 日～2022 年 9 月 19 日　山梨県内新規感染者数累計

2．ウイルスの流行と変わり続けるウイルス

国内で感染が確認されて以来、新規感染者の大きな流行を何度か迎え、2022 年 7 月以降は第 7 波の流行となっている（図 2)。第 7 波では山梨県内の 1 日当たりの感染者数が 1,000 人を超えるなど過去最高の流行となった。

流行するウイルス株も変化し、武漢株、アルファ株、デルタ株、オミクロン株 BA. 1 と変異を続け、第 7 波ではオミクロン株 BA.5 が主流となっている（図 3)。今後もウイルスの変異は続いていくものと考えられる。

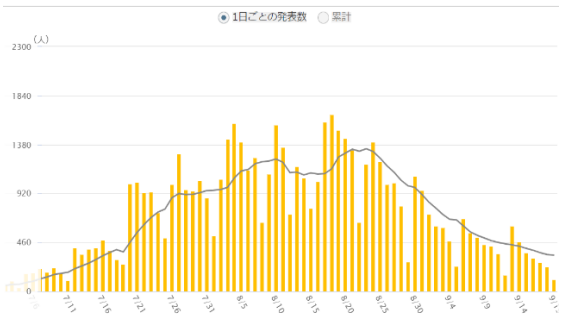


図 2：2022 年 7 月～9 月の山梨県内新規感染者数推移

（NHK ホームページ（2022 年 9 月 20 日）から引用※1)

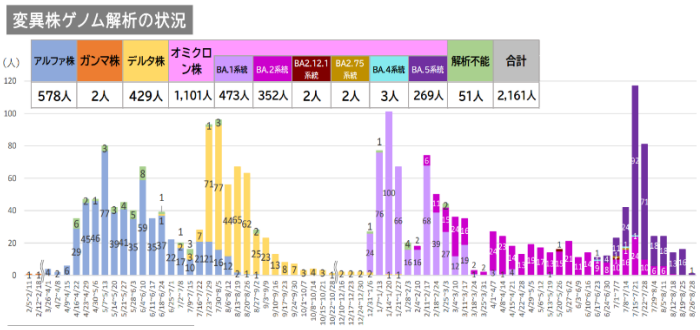


図 3:2021 年 2 月～2022 年 8 月の山梨県内変異株ゲノム解析状況

（山梨県モニタリング週報（2022 年 9 月 15 日）から引用※2)

3．新型コロナ感染症対策

日本政府は、新型コロナ感染症の第 1 波～第 6 波までは、感染対策として、大きな流行を迎えるたびに緊急事態宣言または、まん延防止等重点措置の実施、海外からの入国制限などを行うことで人流抑制や国内持込防止を行ってきた。また、各種感染対策の啓発、さらに、感染抑制と重症化防止を目的に新型コロナウイルスワクチン接種の推進を図ってきた。ワクチン接種者の人口に占める割合は、全国では、2022 年 9 月で 2 回目：

80.4%、3 回目：65.2%、山梨県においては、2 回目：82.42%、3 回目：66.6%となっている（図 4）。国民の 6 割以上がワクチン 3 回接種を終えている状況にある。

2022 年 1 月以降のオミクロン株による第 6 波までは、まん延防止等重点措置の公示等がされたが、過去最高の流行となった第 7 波では、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などの行動制限を伴う施策は行われなくなり、海外からの入国制限の緩和や濃厚接触者の健康観察期間や感染者の療養期間の見直しも進められている。

パンデミックが始まってから 2 年 8 ヵ月が経過し、新型コロナの感染拡大防止に重点をおいた施策から感染対策と社会活動の両立を目指した施策へと変更されてきていると考えられる。

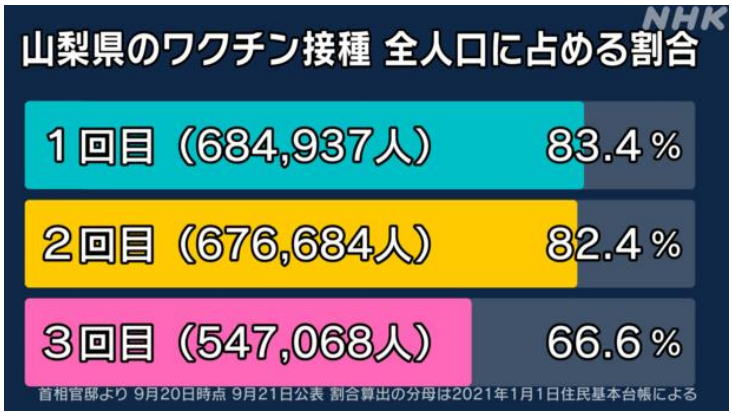


図 4:2022 年 9 月 20 日時点　山梨県のワクチン接種　全人口に占める割合

（NHK ホームページから引用※3）

4．当院における新型コロナ感染症対策

多種多様な疾患を持つ患者さんが多数入院している病院はクラスターが発生しやすい環境である。クラスターが発生した場合は、患者さんも感染してしまうことが多く、患者さんの回復に負の影響を与えることも考えられる。そのため、当院では、流行当初から「ウイルスの持込を防ぐこと」と「持込まれても拡げにくくすること」を主な目的として感染対策を実施してきた。

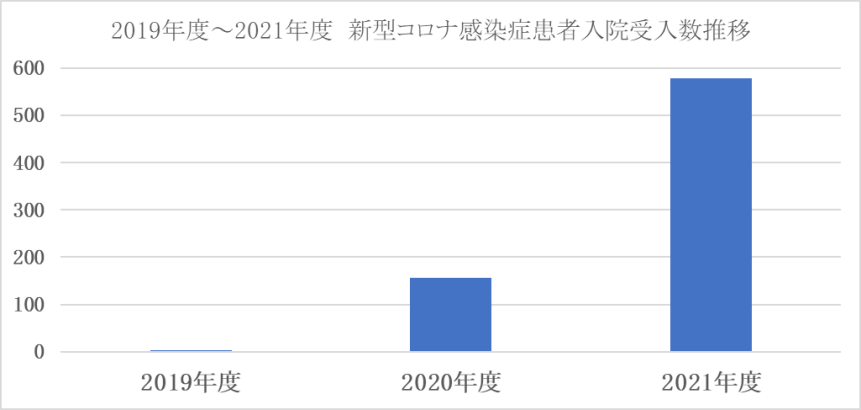
具体的には、勤務開始前の健康状態のチェックや勤務外での感染契機となる行動・会食の制限、さらには、勤務時間中のサージカルマスクやゴーグルの着用、手指消毒の徹底等の勤務時間及び私生活も考慮した感染対策により、職員自身が感染しないよう対策を継続してきた。また、患者さんやご家族にもご協力いただき、新型コロナを疑う症状がある外来患者さんのトリアージや外来・入院患者さんを対象に必要時には新型コロナ検査の実施、面会禁止などの対策も行っている。さらに、甲府市のワクチン集団接種会場の一つに指定され、市民の皆さんへのワクチン接種にも取り組んでいる。

受診・入院される患者さんはもとより地域にお住まいの方を新型コロナ感染症から守るという使命感を持ち、日々、全職員が協力して感染防止のために各種活動をしている。

5．重点医療機関として入院受入れ

当院は、新型コロナ感染症の流行初期から、新型コロナ感染症重点医療機関に指定され、新型コロナ感染症患者さんの入院受入れを行ってきた。受入は、山梨県新型コロナウイルス感染症対策本部から要請された患者さんを対象とし、甲府市を始め県内各地域にお住いの方の入院対応をしている。受入れ患者数は、2020 年 2 月にプリンセス号の乗客を受入れて以降、2022 年 3 月末までに累計 737 人となっている。

自らが感染するのではないかという不安を抱えながらも、必要となる医療を適切に提供するため、職員 1 人ひとりが努力し新型コロナ感染症の患者さんの入院受入れと医療提供を行っている。



６．最後に

新型コロナウイルスは、今後も変異を重ねていくものと考えられる。また、自然感染やワクチンにより獲得した免疫は長期的に保たれるものではなく減衰していくことから、これからも流行が繰り返されると想定される。

社会的には感染対策が緩和される方向にあるが、手指衛生の実施、サージカルマスクの着用、換気の実施といった基本的な感染対策は継続していく必要があり、特に病院においては、新型コロナウイルスの持込やクラスター発生のリスクは何ら変わることはないため、流行状況に合わせ緩急をつけるにしても現在行っている対策を当面続けていかざるを得ないと思われる。

新型コロナ感染症が浮き彫りにしたのは、新型コロナ感染症のようなパンデミックに対応することは病院単独では困難であり、医療機関、行政機関等が力を合わせ地域全体で取り組んでいかなければ乗り越えていくことはできないということである。当院が２年８ヵ月に渡り重点医療機関として活動することができたのは、患者さんや地域の皆さんのご協力があったからである。

診療所を始め地域の関係機関の皆さんにご協力いただきながら、これからも新型コロナ感染症に立ち向かっていくことで、地域医療に貢献できれば幸いと考える。

引用文献

※1：NHK ホームページ特設サイト新型コロナウイルス
(https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/data/pref/yamanashi.html)
※2：山梨県感染症ポータルサイト
(https://www.pref.yamanashi.jp/koucho/coronavirus/info_coronavirus_data.html)
※3：NHK ホームページ特設サイト新型コロナウイルス
(https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/vaccine/progress/)